

先輩たちの
研究体験記

途上国調査で

こんな経験ができました！

健康調査として、現地に暮らす
子どもたちの身長と体重を計測しました。

訪れた国

ジブチ共和国（アフリカ）

もともと海外には興味があったものの、アフリカは危険なイメージ。山本先生と行動を共にすることで、安心してより深く、現地を体験できると思い調査に参加しました。現地では、生活調査とともに子どもたちの健康調査にも参加しました。

砂漠を駆け巡って遊牧民を探し、実際の生活を自分の目で見たこと、アゼルバイジャン人とのルームシェアなど、楽しい思い出がたくさんあります。

一方、毎日を生きるのに精いっぱいの人たちを見て、自分が恵まれた環境にいることを実感。普通の生活がどれだけすごいことなのか、ひしひしと感じる経験になりました。

いま私はITエンジニアの仕事をしています。このゼミでは、解析ソフトを使ったプログラミングを学びます。最初は難しく、毎週出される課題に苦労していましたが、4年時の卒業論文で実際のデータを使いプログラミング解析をする頃には、毎日大学に行くのがとても楽しみなほどになりました。プログラミング漬けの毎日に幸せを感じています。

2020年度卒業

本多 遥さん

アフリカ北東部に位置するジブチ共和国は、年間を通して降雨量が少ない乾燥地帯です。

訪れた国

インドネシア（東南アジア）

インドネシアではパーム油プランテーション開発が進んでいます。プランテーションという日本にない環境が、周囲の人々にどのような影響を与えているのか、現地の人に話を聞き、また、海外の水や住環境の現状を実際に見て知りたいとも思いました。

プランテーションは経済的な恩恵をもたらす一方で、恩恵を受けない農家も存在します。聞き取り調査の結果、開発による森林火災などの影響で困窮している人々がいることが分かりました。プランテーションの良い面と悪い面について、現地の人たちの目線から情報収集できたことは、有意義な成果だったと思います。卒業研究では「飲料水の種類と小児下痢の関係」をテーマに、インドネシアに焦点を当てて分析。現地調査を通じてインドネシアの環境問題に興味を持ち、学びを深めることができました。

2020年度卒業

金谷亜利紗さん



聞き取り調査はコミュニケーションが大切。



ボルネオ島は世界で3番目に大きい島。素朴な営みが残っています。

統計分析は細々した作業の繰り返し。何かしら社会の課題に関心を持ち、解決したいという強い気持ちで乗り越えられれば、自信につながりますよ！

コロナ禍を走り切った

ゼミ室での2年間

卒業研究ではアフリカのナイジェリアを対象地域に、気候変動が子どもの教育に与える影響について研究しました。干ばつの被害が拡大すると農業生産にも影響が及び、農業収入に依存している家庭の貧困につながります。必然的に子どもたちが教育から離れていく問題を、さまざまなデータから分析しました。その結果、非農業世帯でも影響が出ているという新たな課題点も見えてきました。

できれば現状を肌で感じてみたかったのですが、コロナ禍のために断念しました。ゼミに入るまでは、研究って卒業までのひとつのプロセスに過ぎないと思っていたんです。でも実際には、研究に取り組む意味や社会的な意義を考えるきっかけになりました。ゼミで培った知識や考え方を、社会人という次のステップで役立てていきたいと思っています。

2021年度卒業

川本敬介さん



自宅で作業するゼミ生も少なくない中、平日はほぼ毎日ゼミ室へ。山本先生の指導を仰ぎつつ、卒業研究は無事にゴール。

ようこそ
環境科学部の
研究室へ

環境経済学研究室

環境問題と貧困問題を

経済学の視点から考える

Q どんな研究に

取り組んでいますか？



A 環境問題が途上国に与える影響を、

経済学の視点から研究しています。

Q ゼミには何年生で

所属しますか？

A 3年生です。

まず環境や貧困問題に関する文献を読んだり、統計解析をするためのソフトに慣れるための課題に取り組んだりします。必要な知識が身に付いたら研究をスタート。テーマを決めた後、現地調査や公開されているデータなどを組み合わせて統計分析をします。ゼミ生同士、ソフトの使い方など教え合う中で、自然と良好な関係ができていきます。

Q 統計分析など

文系にはハードルが

高そうです。

A 私自身、もともと文系出身です。

複雑な計算はソフトウェアに任せましょう。ただし、プログラムを組むために、ある程度はロジカルな考え方ができる必要があります。いずれにしても、好きなことを見つけてやり遂げる経験をして欲しいです。このゼミが、好きなことを見つけるきっかけになれば良いなと思っています。

Q 研究テーマは

途上国に限定していますか？

A いいえ。限定していません。

統計分析の知識を生かして、人口減少、農業衰退、漂着ごみ問題など、日本国内や長崎固有の課題にチャレンジするゼミ生も多いです。

Q 海外フィールドワークを

経験したいです。

A 途上国調査に参加することもできます。

過去には、インドネシアのボルネオ島やアフリカのジブチ共和国で行った現地調査に、ゼミ生が同行しました。できるだけ現地の状況を生で感じてもらいたいと思っています。途上国の農家や漁師の皆さんと話すこと、政府関係者と意見交換することはとても貴重な経験になるでしょう。ただし、調査は遊びや遠足の延長ではありません。事前準備や調査票の作成など、果たしてもらう役目や義務も大きいです。

私が
おしゃ
すー山本裕基
准教授

大学院生のときに訪れたインドネシア。エルニーニョや農地拡大の影響による、森林火災が問題になっている地域でした。農家の人たちから収入がなくなったと話を聞き、何とかしなければならぬ、漠然とした責任感を抱きました。

山本先生HP

